

新しい酒を新しい皮袋に

信 太 壽

昨年12月 1日に西神楽の新試験場に移転をし、本年 2月 5日に落成記念行事を無事終えることができました。

新試験場の新築・移転はもちろん、落成記念行事にあたりまして、業界・行政をはじめとする関係された多くの方々の御理解・御支援をいただきましたことを深くお礼申し上げます。

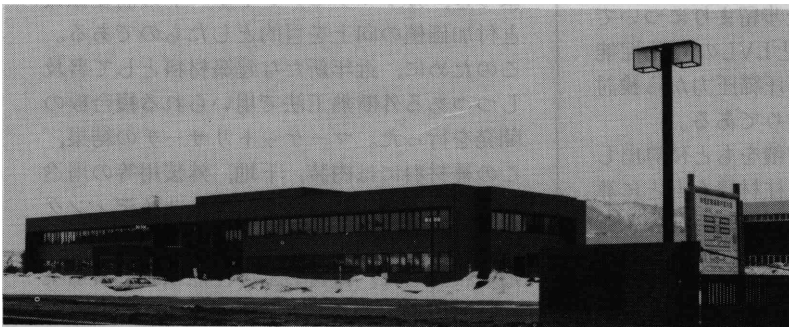
また、落成行事の際に寄せられた、数々のお言葉から、皆様の新試験場に寄せる、要望と期待の大きさをひしひしと感じ、職員一同これからが正念場と決意を新たにしております。

林産試験場は昭和25年 8月19日に旭川市緑町15丁目で開所式を行い、61年11月30日までこの地で36年余を過ごしました。この間の時代の移り変わ

りと共に推移してきた研究課題の流れと成果などを、近文時代のとりまとめとして、本誌 1月号に「林産試験場の成果」として特集しました。

今回、新試験場の出発にあたり、整備の内容や今後の試験研究・指導普及の方向などを御理解いただくためにこの特集をつくりました。

試験場には沢山のデータとノウハウが蓄積されています。また新たに施設や機器も整備されました。今後は業界の皆様と一緒に新製品・新技術の開発に努めたいと思っています。また一般市民の皆様にも木材の知識を大いに利用していただきたいと思っています。この2つの特集号が林産試験場をより有効に活用していただく手引きになれば幸いです。



新 式 験 場

整備に至ったいきさつ

52・53年ころ業界から、老朽化・分散化した当場を整備して、時代のすう勢に対応できるようにする必要があるとの声が出始めました。

また場内でも時を同じくして、長期研究計画作成が52年から始まり53年に出来上がりました。この過程の中からも施設整備が話題になりました。

54年からは、場内に各種検討委員会が発足し、このなかで研究方途・組織・施設などの論議がされました。その後さらに綿密な検討を経て55年には将来を展望した整備の方向が打ち出され、57年に林産試験場整備の基本計画が決定されました。そして58年に工事着手の決断がなされ、着工以来4年の歳月を経た61年12月に無事移転することができました。

新試験場の建築にあたっては、当場の開発技術による木製品を可能な限り使い、木製品の使い方のモデルケースとなるように配慮しました。

また、機器類も、今後の先導的技術開発や、ユーザーのニーズにこたえる技術開発のできるもので汎用性のあるものを心掛けて整備しました。

当場は昭和25年に道立林業指導所として創設以来、研究の成果が直接産業に寄与する試験、林産技術センターとしての積極的な指導普及活動を2本の柱としてきましたが、今後もこの理念を引き継いでまいります。

試験研究と成果普及の方向

試験研究の今後の方向としては、次の3つを柱とします。

1) 木材需要拡大につながる新製品・新技術の開発

資源の国際化の中で、国産材の活用をはかると共に、木製品の住宅部材としての競争力向上・機能向上をはかり、さらに木材用途の新分野への開発をめざします。

2) 既存木材工業の基盤技術の改善

製造コストの低減・生産性の向上をはかり、省力化・省エネ化産業をめざしています。このために、製材・乾燥・加工・合板の製造工程にメカトロニクス等の先端技術の導入をはかり、技術的体質強化のシステム開発などを行います。

3) 木製品・木質部品の最適使用のために、設計資料の充実

木材・木質材料の調湿作用・保温性・弾力性・吸音性など居住性にかかわる性能評価を行い、さらに木造建築物の設計のためにユーザー・工務店

へ提案できる基礎資料を整えます。

以上の多くはすでに研究がスタートしていますが、新施設の充実によって、一層のスピードアップが可能になりました。

また、研究を進めるに当たっては、異分野との共同研究と、企業・行政と連携した研究態勢をさらに強めていきます。これらにより、新しい用途開発と成果の具体化を早め、さらには異業種間の技術複合のきっかけづくりになりたいと考えています。

一方、成果の普及の面では、林産技術センターとしての活動をさらに充実させます。そのために次の3つの点を志向します。

1) 従来から実施している技術指導・技術者の養成・林産技術交流プラザなど木材業界に対するサービスを一層充実させます。

2) 木材利用技術の情報センターとしての役割を果たすために、情報サービス機能の充実を計画しております。

3) 一般市民に対する木の良さ・木の上手な使い方などの啓もう活動を行います。

森林資源産業の発展をめざして

道が巨費を投じて試験場の整備を進めたことは、本道の基幹産業である木材産業の技術革新による早急な活性化を期待しているあらわれです。それだけに試験場の責務はきわめて重大であると自覚しております。

当場の案内板に「木を料学する」と書きました。木部のみならず、枝葉・樹皮も含めて、1本の樹全体のあらゆる機能を引き出すつもりです。21世紀にむけ、森林資源産業の発展をめざし、明るい展望を開きたいとの願いをこめています。

業界の皆様や、市民の方がいつでも気軽に出入りできる「開かれた試験場」をめざしてまいります。新しい施設と新しい環境のもとで、職員全員ががんばっていく覚悟です。

今後共関係の皆様方の一層の御支援をお願いいたします。

(林産試験場長)